

守山市教育研究所発行

平成25年11月28日 No.186

所長 森津 陽太郎

守山市勝部三丁目9番1号 (守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター3・4階)

E-mail kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp TEL 077-583-4217 Fax 077-583-4237

H P http://www2.city.moriyama.lg.jp/moriyama-kyoikukenkyl/

「美しいもの、本物に触れて輝いて！」

滋賀次世代文化芸術センター

副代表・トータルコーディネーター

津屋 結唱子

平成12年より「すべての子どもたちの豊かな心を育てるために、本物の文化・芸術に触れる機会をつくる」をテーマに、「学校」と「美術館・博物館・文化ホール、芸術家」と「コーディネーター、文化ボランティア」の3者が連携して、本物の文化芸術に触れる体験＝「文化芸術連携授業」を県内の学校で行っています。センターはコーディネート役とサポート的立場に徹し、年間約170回の連携授業に関わっています。教室で出会った子どもたちが、普段とは違う輝く表情や内面の変化を見せ、教師や家庭からは感謝の声が届いています。また、センターはネットワークを活かして、東日本大震災後は被災地の子どもたちにアートや食の体験を通じた心のケアのためのイベント「滋賀キッズミュージアム」をいわき市で3年間開催し、延べ5千名の人々と交流をしました。その中で心に残った子どもとの出会いがあります。願いを込めたシーサーを作る陶芸体験に来た女の子はシーサーの目にいっぱい涙を付けていました。陶芸家は「泣いているシーサーは初めて」と胸を詰まらせていましたが、女の子は完成させた作品を私達に見せて「泣き笑いのシーサーになった」と大満足の笑顔で帰っていきました。創造的活動を通じて、子どもが自分の心と向き合い、内面の不安やこだわりが作品の中に現れていくことで、心が落ち着いて笑顔になり、自信を取り戻せることをあらためて実感しました。



文部科学省は「文化芸術の力を教育に活かし、子どもたちの創造性やコミュニケーションの力を育む機会をつくることで、子どもたちが抱えている様々な問題の解決につなげる」体験学習を推進しています。守山市では平成23年、24年と文科省の研究事業において県教委、センターと守山市内の学校が連携し、打楽器奏者・陶芸家・美術館学芸員を講師に音楽と美術の先進的事例に取り組みました。本年度は県とセンターと守山市教育研究所が連携し、芸術家と子どもたちが、文化芸術を通じた新しい創造的活動をしています。センターは「ルシオール アート キッズフェスティバル」に初年度より企画・運営にも関わっていますが、守山市が「教育文化都市の新しい在り方」の全国的先進事例の発信源になる可能性を強く感じています。これからも、地域の資源、人材を多様に活用し、子どもたちに美しいもの、本物の芸術に触れる機会を通じて「自然や人への思いやり」「芸術を楽しむ心」「おもてなしの心」「命の尊さ」などを伝えていきたいと思ひます。

教育研究から

小学外国語活動でオーストラリアの小学生とスカイプをつかったの相互交流

ー協同学習を取り入れた英語科授業・外国語活動の実践よりー

本年度の教育研究として協同学習を取り入れた外国語活動の実践を行っています。小学校外国語活動においては、ゲームや歌で「楽しく」終わるだけではなく、子ども達の国際的志向性を高めることが大切です。つまり、英語を話すことができれば、世界中の人やモノとつながることができるという実体験を通じ、今後の英語教育の大きな動機づけとなるような活動が求められているのです。



本研究では、オーストラリアの小学生に日本の小学校で学ぶ教科について紹介するという課題を、班ごとに協同して取り組みました。「書写」の紹介では毛筆の作品を紹介したり、「音楽」ではリコーダーを演奏したりと、子ども達は工夫をして教科の紹介を行いました。スカイプではリアルタイムで相手の反応がわかります。一つ一つの発表の度に、オーストラリアの子ども達から拍手喝采が送られ、たくさんの質問がありました。

教科紹介のほかには、事前に手紙をやりとした相手との相互の自己紹介や、あっち向いてホイなどのゲーム、オーストラリアの歌を歌うなどの時間を設け、大変に楽しく、温かい時間を国や文化を超えて共有することができました。英語を使ってコミュニケーションできた喜びが、これから始まる英語学習の原体験となることを願っています。

適応指導教室から

守山市適応指導教室(くすのき教室)

—— 滋賀次世代文化芸術センターのプログラムに参加して ——

くすのき教室では、市内小中学生の学校へ行きづらくなった不登校の子どもたちが、毎日元気に過ごしています。その活動の中に裏面巻頭言筆者の津屋さんから、滋賀県の「文化芸術の力を教育に」の推進モデル事業に参加のお声をかけていただき、今年度の活動としては、プロの音楽家や陶芸家、芸術家の方々に直接ご指導を受け、普段できない体験をさせていただいています。

ドラムやマリimba奏者の方には演奏を聴かせてもらい、ドラマー体験をさせてもらったり、自分のコントラバスを持ってきてコラボしたりする生徒もいました。陶芸家の方にはシーサー作りを学び、美術館学芸員の方からはみんなの大好きなアニメのルーツが鳥獣人物戯画にあることを伺い、その絵を慣れない毛筆で震えながらも一生懸命模写しました。教室での活動に関連して、夏には信楽の陶芸の森や美術館を見学に出かけたりもしました。

子どもたちには、本物の文化に触れることを通して、達成感や自信が生まれ、内面的な課題解決に向けて心が動きだして学校復帰につながるきっかけになればと思います。

